

関門海峡ミュージアム

関門海峡ミュージアムは、そのドアのすぐ外を流れる重要な海の道の歴史を紹介する最先端の施設である。ミュージアムは 2003 年に設立されたが、2019 年に大規模な改修工事を終えて再オープンした。建築は出港間近の巨大な船を模しており、世紀末の豪華客船や近未来的な宇宙船を思わせる。映像音声を使用した体感型の展示は、来館者を探検の旅へと誘う。

プロムナードデッキからの絶景

ミュージアムは 4 階の広々とした明るいプロムナード・デッキ・ラウンジからスタートし、上から下へと体験できるよう設計されている。その名の通り、プロムナードデッキは豪華客船の展望ラウンジをモデルにしている。そこには床から天井まである窓や革張りのソファ、カフェがあり、眼下を行き交うコンテナ船やフェリー、巡視船を眺めるのに理想的なスポットだ。壁には、1934 年の賀茂丸の 2 等喫煙室でチェスに興じる乗客や、東のニューヨークへ勢いよく蒸気を吐いて進むリスボン丸など、往年の豪華客船の複製写真が飾られている。

関門海峡アトリウム

この中央の展示エリアへは 4 階から向かう。アトリウムの中心には、日本最大級の 162 平方メートルの曲面プロジェクタースクリーンがあり、関門海峡の過去と現在を描いたアクション満載の 4 つのアニメーションが上映されている。8 分間の映像は"関門海峡の一日"、"光と音楽の海"、"古今関門海峡絵巻"、"門司港ものがたり"と名付けられている。

4 階から 2 階までのギャラリーは螺旋状の通路でつながっている。通路の内側の壁にはタッチスクリーンが並んでおり、来館者はタッチスクリーンを利用して"はっけん！お魚ずかん"や"なりきり巖流島の決闘"などのゲームで遊ぶことができる。潜水艦を操縦して海洋生物の写真を撮影し、記念品としてダウンロードできるシミュレーションゲームもある。チケットの表面にある QR コードによって、来場者は自分の使用言語を指定したり、ゲームの特定の機能を利用したりすることができる。

歴史が息づく関門海峡歴史回廊

3 階の関門海峡歴史回廊では、日本とチェコを代表する 10 人のアーティストによる独創的なジオラマを展示しています。ジオラマは古代の伝説や重要な戦い、歴史的な場面など、海峡にまつわる様々な物語を実物のように表現している。生き生きとした展示は神話に出てくる神功皇后(西暦 200 年代)、カトリック宣教師のフランシスコ・ザビエル (1506-

1552)、剣豪の宮本武蔵（1584-1645）、優秀な医師であり植物学者であったフィリップ・フランツ・フォン・シーボルト（1796-1866）など、さまざまな歴史上の人物を紹介している。

その他のジオラマには、高名な仏僧である空海の806年の戸ノ上山参拝、1592年の豊臣秀吉の海難など、あまり知られていない出来事をテーマにしたものもある。各ジオラマには、日本語、英語、韓国語、中国語の説明パネルが設置されている。

学習ゾーンで楽しく体験学習

2階の「関門海峡体験学習ゾーン」では、海峡を安全で活気ある海の道として維持していくための取り組みを、体験型のゲームや展示で伝えている。「コンテナクレーン体験」や「かんもんダイバー」などといったシミュレーションでは、船長や海上保安官、潜水士などといった海峡を守る人々の仕事を体験できる。窓際の「船舶検索」パネルでは、ボタン操作で海峡を航行する船舶をリアルタイムで確認できる。

レトロレーンでタイムスリップ

1階と2階にある「関門海峡レトロ通り」では、1890年代から1920年代にかけての栄えた門司港の街並みが再現されている。スポットライトが照らす鮮やかな情景は、足を止めて、その時代その場所にいるかのような気持ちを味わせてくれる。再現された豊かで国際的な町では路面電車が走り、バナナ売りが客と談笑し、男たちは山高帽やハンチングを和装に合わせる。2階では、昔の写真や地図、日用品などが展示されており、過去のイメージを喚起させてくれる。これらをつなぐ長い廊下からは、同じく時間が止まったような店やレストランを眺めることができる。

門司港バナナ資料室は、レトロ通りの一角にある。1899年に門司で起こった海外貿易の大ブームや、今でも港で行われている派手で賑やかなバナナの競り（たたき売り）の文化が詳しく展示されている。